

東日本大震災復興支援プロジェクト 第16回活動報告



北部集出荷施設を見学する福島の児童ら。

放射能がない空気という当たり前のことが、
福島の子供たちには特別だという現実。

8月10日に実施した第16回目復興支援プロジェクトは、鶴岡青年会議所が主催する『希望の光プロジェクト』との合同企画となりました。

このイベントは、東日本大震災および福島第一原発事故の影響で、今もなお放射能被害に苦しむ現地の子供たちを鶴岡に招き、心の支援活動に取り組みようというもの。

参加したのは、福島県沿岸地域で暮らす児童らと、鶴岡で避難生活をしている福島県民のべ450人。加茂水族館を見学したり、日本有数規模を誇る赤川花火大会を楽しみました。

JAでは、営農指導員らによる農業授業、集出荷施設の見学の他、特産であるメロンのふるまいでイベントに協力しました。

この日がきっかけで、震災以降、散り散りになってしまった学校の友達と偶然再会できたというお話を伺いました。鶴岡での二日間が、わずかでも子供たちの希望につながってくれば幸いです。一日も早い故郷の復興をお祈りします。



今回も、西郷砂丘畑振興会よりメロンを提供いただきました。



450人の参加者の中には、鶴岡で避難生活をされている人も。鶴岡でできる支援もプロジェクトで検討していきます。